









地域福祉計画・地域福祉活動計画

		担当課	市・福祉総務課
重点事業	1	地域座談会の実施	施策・事業の内容
基本目標	1	地域の新たなつながりをつくる	
	3	地域福祉活動への動機づけ	5年後の到達点
合言葉	支えあいの心が行き渡るまちにしましょう		

区分	年度別内容				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
計画	課題の洗い出し	解決策の検討	ネットワーク委員会の立ち上げ	ネットワーク委員会の立ち上げ	ネットワーク委員会の立ち上げ
実績・進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域における地域課題の抽出を行うため、市内6地区、139名の参加のもと開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク委員会の設立に向け、グループを小学校区に分け、153名の参加のもと開催 ・今回は、先進地(安城市、豊中市)の取組みを“学ぶ”時間を取り入れた 	<ul style="list-style-type: none"> ・20区、計19回にわたり、福祉活動の推進に向けた座談会を開催し、サロン、健康体操などの活動が開始された。 ・ふらっとみなみの運営協議会の役員で座談会を開催し、新たに福祉部会が設立された(次年度以降、具体的な活動を検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・14区、計20回にわたり福祉活動の推進に向けた座談会を開催し、新たに6ヶ所のサロン活動が開始された。 ・小牧原小学区の地域協議会の設立に向けた勉強会に同席した。 ・9小学校区で小学校区を単位とした座談会を開催し、ネットワークの必要性について意識の高揚を図った。 	今後の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・区単位の座談会については、継続実施する(集いの場の設置数:55箇所を目標) ・出前講座などの啓発チラシを区長、民生委員に配布し、座談会の働きかけを行う。 ・全16小学校区において、座談会を開催し、ネットワークの必要性について普及啓発を行う。
	 <p>計画どおり進んでいます</p>	 <p>計画どおり進んでいます</p>	 <p>計画に変更があります</p>	 <p>計画に変更があります</p>	
課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・地域座談会をきっかけに、サロン等をはじめとした小地域福祉活動が実施されるようになったが、まだ、一部の地域に限定されている。 ・地域座談会が地域に定着していくように、更なる支援が必要である。 ・ネットワークの必要性について、更なる普及啓発が必要である。 ・地域座談会を含め、参加者が固定化されており、地域福祉活動の充実のためにも担い手の育成をはじめ、普及啓発が必要である。 				

地域福祉計画・地域福祉活動計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画			担当課	社会福祉協議会・地域福祉課
重点事業	2	ボランティア土壌の育成・支援	施策・事業の内容	より多くのボランティアが「ボランティア活動の意義や必要性」について理解を深め、活動継続のモチベーションを高めるため、『ボランティアの想いをつなぐグループミーティング』を開催します
基本目標	2	地域福祉活動を動かす仕組みをつくる		
	1	地域福祉活動の人材の育成・発掘	5年後の到達点	
合言葉	みんなが参加できるまちにしましょう			





区分	年度別内容				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
計画	高齢・障がい・児童等に種別を分けて開催	⇒	⇒	⇒	⇒
実績・進捗状況	<p>勉強会は未開催。どんな内容の勉強会・グループミーティングを開催するか社会福祉協議会で検討する。</p>  <p>計画より遅れています</p>	<p>【高齢：介護保険のしくみ】・【障がい：障がいの種類と福祉サービス】・【健康づくり：自身の健康あつてのボランティア活動】という分野ごとのテーマで勉強会を開催。127人参加。</p>  <p>計画どおり進んでいます</p>	<p>・平成26年度以降も、ボランティアが一同に集まり学ぶ場をつくる。 ・平成26年度は各分野のボランティアが楽しみ学ぶことでボランティア活動への意識向上を狙う。 ※介護予防体操・義肢製作所の見学等を実施。</p>  <p>計画どおり進んでいます</p>	<p>・ボランティアを対象に3回勉強会を開催 【高齢：介護の現状と介護サービス】65名参加、【災害・防災関連：災害避難者からの話】：74名参加、【障がい：小牧ワイナリー見学】83名参加</p>  <p>計画どおり進んでいます</p>	<p>今後の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野ごとの勉強会を継続実施 ・開催回数、内容については、ボランティアのニーズに応じて調整予定 ・ターゲットをしばり勉強会のテーマ設定を工夫する
課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代、子育て世代など担い手となってほしい世代に分けた普及啓発や関心の高い分野・テーマでの勉強会、講座の開催が必要である。 ・退職者等の世代の参加機会を創出し、地域とのマッチング支援が必要である。 ・参加者が固定しがちであり、一堂に会して実施する手法以外に、個別訪問し、地域において勉強会を実施する手法も検討を要する。 ・老人クラブ、子ども会など会員数の伸び悩みや事業のマンネリ化などの課題を持った団体との連携が必要である。 ・ボランティアに参加していない世代の洗い出しと参加の方法について工夫が必要である。 				

地域福祉計画・地域福祉活動計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画			担当課	社会福祉協議会・地域福祉課
重点事業	2	ボランティア土壌の育成・支援	施策・事業の内容	ジュニア奉仕団卒団生のボランティアグループの組織化を図ります
基本目標	2	地域福祉活動を動かす仕組みをつくる		
	1	地域福祉活動の人材の育成・発掘	5年後の到達点	卒団生の組織化と自主活動の展開
合言葉	みんなが参加できるまちにしましょう			

区分	年度別内容				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度

計画	卒団生の意向確認	組織化活動開始	⇒	⇒	⇒
-----------	----------	---------	---	---	---

実績・進捗状況	ジュニア奉仕団卒団後の意向調査をおこなう。中学3年生376人に対して意向調査。6割がボランティアを高校生になってもやりたいという結果。(アンケート回収率9割)	ジュニア奉仕団卒団生でボランティアグループ「ココボラ」を結成。月1回程度のニーズに対応している。イベントの手伝い等が主な活動。サポートする大人の会を立ち上げる。月1回の例会を開催。	・ココボラ各活動は継続。平成26年度～母子寡婦福祉協議会からの要請で、母子家庭の子どもに対し学習補助に入っている。(月1回) ・学習支援が定期的な活動となるよう努める。 ・ココボラメンバーは随時募集。ジュニア奉仕団在団生には「総会」、卒団生には「お別れ会」などのイベントにココボラメンバーや社協職員が出向き募集・PRをする。	・ココボラ:メンバー23名 ・計74回のボランティア活動を実施	今後の展開	・卒団生に向け、ココボラの周知を図り、会員募集 ・活動については、継続実施
						

計画どおり進んでいます





計画どおり進んでいます

計画どおり進んでいます

計画どおり進んでいます





課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズについては対応できているが、学生が多忙で集団として大きな動きは出来ないのが現状である。 ・事務局と学生又は学生同士で時間が合わず打ち合わせ等の日程調整がとれずコミュニケーションを深めることが難しい。 ・ココボラの特徴的な活動をあげる必要がある。 ・母子家庭の子ども向けに実施している学習支援について、そのあり方を検討する必要がある。
--------------	--

地域福祉計画・地域福祉活動計画

			担当課	市・福祉総務課		
重点事業	2	ボランティア土壌の育成・支援	施策・事業の内容	地域活動を活性化していくための手段として、ポイント制や有償などの手法について検討します		
基本目標	2	地域福祉活動を動かす仕組みをつくる		5年後の到達点	必要に応じて仕組みづくりを行う	
	2	サービス支援の充実				
合言葉	みんなが参加できるまちにしましょう					
区分	年度別内容					
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
計画	⇒	⇒	座談会などで必要性について検討	必要があれば仕組みづくりを行う	⇒	
実績・進捗状況	・ボランティア活動にポイント制を導入している埼玉県行田市を視察するなど、先進事例の調査を実施	・ポイント制を導入する範囲、活動などの整理を行うとともに、引き続き、先進事例の調査研究を実施	・新基本計画の市政戦略編にポイント制度に関する事業が盛り込まれたことを受け、関係課間で協議を行った。	・介護ボランティア制度について、その是非を含め検討を行う。 ・制度の狭間にある住民にとって必要な新たなサービスについて、住民参加のもとでの創設の可能性について検討を行った。	今後の展開	・介護保険制度の改正に伴い、県内においても介護ボランティア制度を実施されるケースが増加することが見込まれることから、それらを調査研究し、必要であれば、制度化していく。
	 計画どおり進んでいます	 計画どおり進んでいます	 計画に変更があります	 計画に変更があります		
課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の改正など、有償サービスのニーズや検討に関する基本的な考え方を整理する必要がある、計画を変更した。 ・住民参加型サービスやコミュニティサービスとして新制度の検討が必要である。 ・より小地域である区から小学校区、福祉圏域へ広がりに伴い、それらの役割や活動内容を整理する必要がある。 ・児童、生徒などを含め、地域住民にとって生きがいにつながる場づくり、仕組みづくりが必要である。 					

地域福祉計画・地域福祉活動計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画			担当課	社会福祉協議会・地域福祉課
重点事業	3	要援護者の見守りネットワーク事業	施策・事業の内容	市の実施する要援護者台帳整備と共に日頃からのふれあいや交流が見守りとなり孤立死がないように努めます
基本目標	3	地域で安心して暮らせる仕組みをつくる		
	1	見守り活動等の推進	5年後の到達点	2年間の準備期間を経て地域の見守り活動を実施する
合言葉	安心して暮らせるまちにしましょう			





区分	年度別内容				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
計画	情報の集約 地域実状の調査(1地区)	呼びかけ、ボランティアの養成	見守り活動の実施		
実績・進捗状況	地区を限定した情報の集約はしていないが、地域座談会を通して、各地区の現状・課題を把握した。	地域福祉活動(区単位に開催されるサロン活動等)の実施について支援し、その活動を通しての地域の見守り体制を構築できるよう働きかける。	情報の集約 地域実状の調査(1地区) ・区単位の地域福祉活動(サロン活動等)の実施に向けた支援を継続していく。 ・活動を通して、地域ごとの要援護者の見守りができるような仕組みをつくる。 ・平成25年度以降、41区に接触。 新しく9つの地域福祉活動が開始される。	呼びかけ、ボランティアの養成 ・14区、計20回にわたり福祉活動の推進に向けた座談会を開催し、新たに6ヶ所のおサロン活動が開始された。	今後の展開 ・区を単位とした地域福祉活動を積極的に推進する中で、地域の"つながり"による見守り体制の充実化を図る。 ・認知症サポーター養成講座のステップアップ講座の実施に向け、調査研究を行い、地域における活動者の発掘、養成に努める。
	 計画に変更があります	 計画に変更があります	 計画に変更があります	 計画に変更があります	
課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯、防災など住民にとって関心の高い分野を通じた働きかけが必要である。 ・一部の地区では、防犯活動が未実施である。また、活動自体、マンネリ化しており、その防止策の検討が必要である。 ・“見守り”といっても、さまざまな形があることについて、先進自治体や市内の各地区における活動事例を収集し、発信する必要がある。 ・出てこない人を見守る仕組み等の検討は必要である。(サロン活動からの訪問見守りボランティアへの発展等) 				

地域福祉計画・地域福祉活動計画

		担当課	市・福祉総務課
重点事業	4	災害時要援護者支援体制の構築	施策・事業の内容 災害時の支援体制と併せ、身近な地域での支援体制の強化を推進します
基本目標	3	地域で安心して暮らせる仕組みをつくる	
	4	災害時要援護者の把握と支援の充実	5年後の到達点 年1回程度 地区要援護者救援訓練を地域で開催
合言葉		安心して暮らせるまちにしましょう	

区分	年度別内容				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度

計画			地区での救援訓練の実施	⇒	⇒
-----------	--	--	-------------	---	---

実績・進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧市災害時要援護者支援制度実施要綱に基づき、登録された方について、民生委員等に更新名簿を配布した。 ・北里地区では、民生委員が中心となって、平成21年に作成した要支援者名簿・マップを更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、民生委員等に更新名簿を配布した。 ・北里地区の要支援者名簿の作成事例を他地区に紹介し、作成に向けた働きかけを実施 ・災害基本法の改正を受け、本市の避難行動要支援者のあり方について調査研究を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・改正災害基本法に基づき、避難行動要支援者の決定し、名簿を作成する。(名簿記載者4,174名) ・名簿記載者に対し、第三者への情報提供の調査を実施し、台帳を整備した。(台帳記載者2,271名) ※記載者数は、いずれもH27.4.15現在の人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・台帳を、関係機関(区長・民生委員等)に台帳の活用方法、地域の見守りネットワークの構築のためのマニュアルも合わせて配布した。 ・小地域(区)における要援護者支援体制の構築に向けた座談会に市・市消防・社会福祉協議会も参加し、検討を行った(3区計2回) 	今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度の民生委員の重点目標として「要支援者台帳に基づくマップ等作成」が位置づけられたことを受け、区長、自主防災組織に積極的な関与を働きかけるとともに、台帳が地域において有効に活用されるよう個別支援の充実化を図る。
	 <p>計画どおり進んでいます</p>	 <p>計画どおり進んでいます</p>	 <p>計画に変更があります</p>	 <p>計画に変更があります</p>		

課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策基本法の改正を受け、“見守り”の基本となる台帳は整備され、各区に配布したが、日ごらの見守り活動に活用するなど、台帳の活用方法について、検討が必要である。 ・区の代表である区長さんの概ね7割が1年で交代されること、他の区長業務で多忙なこともあり、防災、減災活動に結びつかないのが現状である。 ・台帳記載内容は個人情報であり、その取り扱いについて、認識を共有する必要がある。 ・災害弱者が避難する場(福祉避難所)のあり方や、その運営などについて検討が必要である。
--------------	---


地域福祉計画・地域福祉活動計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画			担当課	市・福祉総務課
重点事業	6	ご近所福祉ネットワークモデル事業	施策・事業の内容	小学校区を単位に「ネットワーク委員会」を構築し、地域の福祉課題の共有化、具体的な取組み、横のつながりづくり、要援護者を支える仕組みづくりを進めます。
基本目標	2	地域福祉活動を動かす仕組みをつくる		
	3	地域福祉推進基礎組織の整備	5年後の到達点	地域福祉推進基礎組織の確立 自主的な活動の始動
合言葉	みんなが参加できるまちにしましょう			

区分	年度別内容				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度

計画			指定 1小学校区 (合計1地区)	⇒	指定 2小学校区 (合計3地区)
----	--	--	------------------------	---	------------------------

実績・進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会のあり方の検討にあわせて、ネットワーク委員会のあり方について調査研究した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会設立の目途がたった陶小学区に対し、ネットワーク委員会の設立支援のため、投げかけをしたが、地区の意向もあり、見送ることとなった。 ・地域福祉活動(区単位)の支援を強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陶小学校区、篠岡小学校区に働きかけたが、地区の意向もあり、見送ることとなった。 ・20区に対し、小地域活動の支援を実施し、サロンや健康体操などの福祉活動の開始につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧原小学区の地域協議会の設立に向けた勉強会に同席した。 ・9小学校区で小学校区を単位とした座談会を開催し、ネットワークの必要性について意識の高揚を図った。 【陶、篠岡、小牧原、南部地区(小牧南、米野)、北里地区(北里、小木以外)】 	今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・全16小学校区において、座談会を開催し、話し合いの場、まちづくりを考える場として、ネットワークの必要性について普及啓発を行う。
---------	---	--	--	--	-------	--

	—	 計画に変更があります	 計画に変更があります	 計画に変更があります	
--	---	---	---	---	--

課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン、健康体操など個々の地域福祉活動の進展が先決であったため、ネットワークの必要性に関する普及啓発は不十分である。 ・介護保険制度の改正に伴い、ネットワークの役割(圏域の視点、重層的な視点等)について、関係者間で認識を共有する必要がある。 ・社会的孤立を生まない地域づくりを意識する必要がある。 				
-------	---	--	--	--	--

地域福祉計画・地域福祉活動計画

重点事業			5	ネットワーク委員の養成・育成	担当課 社会福祉協議会・地域福祉課	施策・事業の内容 地域における福祉活動の推進役、社協等と住民のパイプ役として、活動できる人材を育成します
基本目標			2	地域福祉活動を動かす仕組みをつくる		
			3	地域福祉推進基礎組織の整備		
合言葉			みんなが参加できるまちにしましょう		5年後の到達点	モデル事業実施地区へのネットワーク委員の設置

区分	年度別内容				
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度



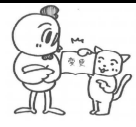
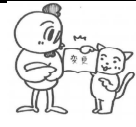
計画	次期モデル事業実施地区にてネットワーク委員養成研修を開催 10名養成	⇒	次期モデル事業実施地区にてネットワーク委員養成研修を開催 20名養成 (延べ30名)	⇒	次期モデル事業実施地区にてネットワーク委員養成研修を開催 20名養成 (延べ50名)
-----------	---------------------------------------	---	--	---	--

実績・進捗状況	養成研修は開催していないものの、地域座談会を通して、地域ごとのキーパーソンになりえる人材について目途をつける。	市が推進する地域協議会（小学校区の住民自治組織）の設置に合わせてネットワーク委員会を設置する方針をたてる。	市協働推進課が進める地域協議会の設置に合わせ、ネットワーク委員の位置づけや養成を検討した。	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動を進める中で、無理なく活動が継続するよう意識付けを行った。 市協働推進課が進める地域協議会の設置に合わせ、ネットワーク委員の位置づけ等について、検討を行った。 	今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> 区単位の座談会や地域福祉活動を通じて、担い手の発掘、養成に努める。
----------------	---	---	---	--	--------------	---

			
計画より遅れがあります	計画に変更があります	計画に変更があります	計画に変更があります

課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> 地域協議会の福祉部会の設立目途が立たないこと、ネットワークの設立以前に小地域における活動の充実化が優先との判断により、ネットワーク委員の養成研修の開催は見送った。 サロン、健康体操など個々の地域福祉活動の進展が先決であったため、ネットワークの必要性に関する普及啓発は不十分である。 ネットワークの必要性について地域である程度周知ができた時点で、地域福祉活動のキーパーソンがネットワーク委員になっていただく働きかけが必要である。
--------------	---

地域福祉計画・地域福祉活動計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画			担当課	社会福祉協議会・地域福祉課			
重点事業	-		施策・事業の内容	三世代交流会、納涼福祉映画会 ふれあいサロン、ふれあい会食会 あいさつ運動、コミュニティカフェ 子育てクラブ			
基本目標	1	地域の新たなつながりをつくる		5年後の到達点	H24,25は現行の事業拡大。 モデル地区はH26以降は取り組む事業、回数を決め実施		
	1	交流活動の推進					
合言葉	支えあいの心が行き渡るまちにしましょう						
区分	年度別内容						
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度		
計画	三世代交流会：目標65地区 納涼福祉映画：目標10地区 ふれあいサロン：目標20ヶ所 ふれあい会食会：目標6ヶ所	三世代交流会：目標68地区 納涼福祉映画：目標13地区 ふれあいサロン：目標23ヶ所 ふれあい会食会：目標8ヶ所	モデル地区で話し合い、選択して実施	⇒	⇒		
実績・進捗状況	三世代交流会：実績59地区 納涼福祉映画：実績16地区 ふれあいサロン：実績24ヶ所 ふれあい会食会：実績6ヶ所	三世代交流会：実績66地区 納涼福祉映画：実績13地区 (うち子育てサロン1ヶ所) ふれあい会食会：6ヶ所	区単位の地域福祉活動実施に向けた支援を継続していく。地域と協議を重ねるなかで、各活動が地域で実施できるような提案をする。三世代交流会：実績62地区 福祉映画：実績 15地区 ふれあいサロン：29ヶ所 (うち子育てサロン1ヶ所) ふれあい会食会：6ヶ所	区単位の地域福祉活動実施に向けた支援を継続していく。地域と協議を重ねるなかで、各活動が地域で実施できるような提案をする。三世代交流会：実績61地区 福祉映画：実績15地区 ふれあいサロン：35ヶ所 (うち子育てサロン1ヶ所) ふれあい会食会：6ヶ所	今後の展開	区単位の地域福祉活動実施に向けた支援を継続していく。三世代交流会を実施する区が減っているが、定期的なサロン活動は増えてきている。小学校区でのネットワーク構築により、サロンや三世代交流会が多くので展開できるような働きかけをする。	
						計画より遅れがあります	計画に変更があります
課題と展望	・三世代交流会の数が減っているが、市の地域3あい事業との実績をみて世代間交流が減っているのか検証する必要がある。						